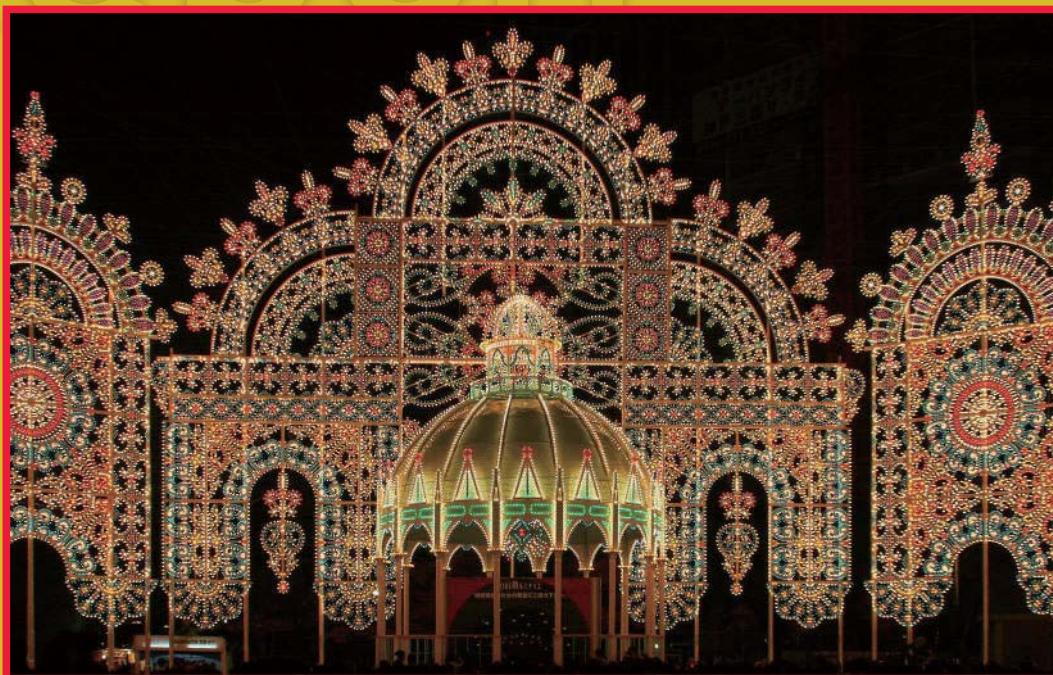


木耐協 マンスリーレポート

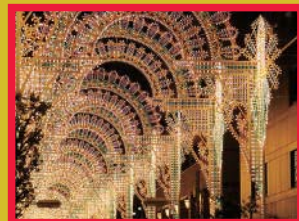
2015.1
vol.
193

木耐協
マンスリーレポートの
表紙を飾る
写真募集!!
詳しくは「Mokoo」を
ご覧ください。



今号の表紙

『神戸ルミナリエ』は、阪神・淡路大震災の鎮魂の意を含めて、大震災の起きた1995年の12月から始まりました。震災の記憶を語り継ぎ、都市と市民の「希望」を象徴する行事として毎年開催され、2014年で20回目の開催となりました。



CONTENTS

あれこれ寄稿	P06
木耐協組合員様アンケート報告	P07
安斎先生の技術通信	P08
白水秀一氏の「耐震マスターへの道」	P09
理事長オススの一冊!	P10
資格の花道	P10
イベントスケジュール	P11
事務局通信	P11
組合員さんこんにちは!	P12

NEW!

「この20年を振り返る」
P04

スペシャル対談

小野理事長 & 安斎技術顧問

あの震災がもたらしたこと
P02

特集
阪神・淡路大震災から20年





特集 阪神・淡路 大震災から20年

あの震災がもたらしたこと

阪

神・淡路大震災から20年の月日が経とうとしていきます。1995年1月17日の朝5時46分に発生した、兵庫県南部地震により、6千434人も尊い人命が奪われました。亡くなられた方の84%が倒壊した家屋による「圧死」だったことが、その後の調査で明らかとなりました。神戸市内の死者に限ると、92%の方は建物倒壊から約15分以内に亡くなっていったとされています。木耐協協定のきつかけともなった大震災。あの震災から学ばなければならぬこと。その後の20年に与えた影響について、木耐協の活動も合わせて振り返りながら考察していきます。

二度と 繰り返してはならない あの震災の悲劇

住宅が倒壊しなければ、命を落とすことはなかった。このことが私たちに突きつけられた大きな事実ではないでしょうか。家具の転倒防止や防災グッズ・食料品の備蓄も大切ですが、何よりも住宅自体の耐震性が重要であることが明らかにされました。

またこの震災により、大地震で木造住宅が倒壊するメカニズムが解明されました。そして、震災後の平成12年には建築基準法改正。2階建て以下の住宅にも引き抜け力に見合った金物を設置することが義務づけられ、耐力壁の配置バランス（偏心率）を考慮することも明文化されました。

さらに、この震災が衝撃的だったのは、大地震の発生確率がわずかに0.02%~8%という地域で大地震が発生したということでした。当時、兵庫県南部では大地震はほぼ発生しない、とみられていたのです。この震災以後、巨大地震は日本のごとで発生してもおかしくないという意見が専門家からも発言されるようになりました。

竹灯籠(とうろう)で“1.17”の文字が描かれ、地震発生時刻には犠牲者を悼むために、黙とうが捧げられます。ご遺族、市民ボランティア、企業、行政の協働で毎年行われています。

数字でみる 阪神・淡路大震災

発生年月日	平成7年(1995年)1月17日(火)5時46分
地震名	平成7年(1995年)兵庫県南部地震
	マグニチュード/7.3
	震源の深さ/16km

震度7を観測した地域/
神戸市須磨区鷹取・長田区大橋・兵庫区大開・中央区三宮・灘区六甲道・東灘区住吉、芦屋市・芦屋駅付近、西宮市夙川等、宝塚市の一部、淡路島北部の北淡町、一宮町、津名町の一部



人的被害状況	死者 6,434人
	行方不明者 3人
	最大避難者数 316,678人 (平成7年1月23日時点)
住宅被害	住家被害 639,686棟 (うち、全壊104,906棟)
火災被害	焼損棟数 7,574棟 (うち、全焼7,035棟)

阪神・淡路大震災で得られた4つの気づき

- ◆ 木造住宅が地震で倒壊する原因が明らかに
 - ① [壁 量]耐力壁の量が少なかった
 - ② [接合部]ホゾから柱が引き抜けるホゾ抜けが起きた
 - ③ [偏 心]壁の配置バランスが悪かった
 - ④ [劣 化]腐朽や蟻害が多くみられた
- ◆ 日本全国に大地震発生リスクがあること
大地震が兵庫県南部で起きる確率は0.02~8%と予測されていた
- ◆ 家屋の倒壊を防ぐことの重要性
「マイホームが凶器になった」という悲劇が住宅の耐震化を推し進めた
- ◆ 広まった災害ボランティアの心
のべ130万人を超えるボランティアが駆けつけ、ボランティア元年とも呼ばれました



写真出典：災害写真データベース

震災を忘れない、語り継ぐための取り組み
震災から20年を迎え、記憶や防災意識の風化が課題になっています。震災の経験・教訓を忘れることなく次世代に語り継ぐため、追悼行事や様々なメディアでの情報発信が予定されていますので、ぜひチェックしましょう。

追悼イベント「1.17のつどい」
日時：2015年1月17日(土)5時~21時
場所：神戸市の東遊園地公園



インターネットサイト
【特集】阪神・淡路大震災(神戸新聞)
<http://www.kobe-np.co.jp/rentoku/sinsai/>
震災直後と現在の写真をマップ上で見比べたり、年表やデータで震災を振り返ることができます。また、震災・復興を見つめてきた人々のインタビュー記事や写真等、充実したサイトになっています。

発

生から20年が経過する阪神・淡路大震災だけでなく、東日本大震災でさえ人々の記憶から薄れてしまっていることを危惧する声が出始めています。また一方で、震災後の震災関連死が増加するなど、東日本大震災が阪神・淡路大震災と同じ轍を踏んでいるという報道もあります。いつどこで巨大地震が発生しても不思議ではありません。消費者に「想定外だった」と言わせないために、これまでの教訓を活かし、安全・安心な住まいづくりを進めましょう。

出典 阪神・淡路大震災について(確定報) (2006年5月19日現在 消防庁)
阪神・淡路大震災の復旧・復興の状況について(平成26年1月 兵庫県)

スペシャル対談

小野理事長 × 安斎技術顧問

この20年を振り返る

今回は、木耐協創設以来、組合を牽引し続けてきた小野理事長と、木耐協の技術力向上を講習会等を通じて支え続けてくださっている安斎技術顧問に、阪神・淡路大震災発生時から現在までの20年について、様々なお話を伺いました。

木耐協創設から今まで

- 平成8年12月
耐震啓蒙活動開始
- 平成9年9月
「木造住宅耐震補強推進協議会」を設立
- 平成10年9月
第1回耐震診断士講習会
(現:耐震技術認定者講習会)開催
- 平成11年3月
3月4日、建設大臣の認可を受け、
組合員数129社で「日本木造住宅耐震補強
事業者協同組合」となる
- 平成14年2月
技術向上委員会
安斎技術顧問を委員長として発足
- 平成14年3月
組合員数500社、
耐震診断実施件数50,000棟を超える
- 平成16年10月
“新潟県中越地震”のボランティア活動実施
- 平成17年4月
耐震診断実施件数が100,000棟を超える
- 平成19年8月
組合員数が1000社を超える
- 平成19年10月
安斎技術顧問が国土交通大臣賞を受賞
- 平成23年6~8月
“東日本大震災”ボランティアとして
「被災地支援プロジェクト」
「大工道具支援プロジェクト」を実施
- 平成24年10月
耐震診断実施件数が150,000棟を超える

小野 講習会については交通トラブルや体調不良などによる一度の欠席も無く、延べ300回以上を講義し続けていただいています。



▲協同組合となった頃の講習会、講師はもちろん安斎先生
◀今も続く技術通信

小野 私は建設会社の社命で被災地入りしてました。ビルや高速道路が倒れて道路を封鎖し、多くの木造住宅が倒壊。古い住宅は元の形がわからないほどに壊れ、比較的きれいな住宅でも1階部分が倒れて2階部分だけが残るという状況でした。また、多くの方が住宅の倒壊が原因で命を落とされたという事実を目の当たりにし、既に建っている住宅をどうにかしなければなら

訪れた転機
小野 平成3年頃、私は建設会社に勤めていたのですが、その時に意匠設計をお願いしていた設計事務所でお会いしたのが初めてですね。
安斎 その頃は既に独立して構造設計事務所を立ち上げていました。まさかこんなに長い付き合いになるとは思っていませんでした。

技術者集団として
小野 小野理事長が旗を振り、安斎先生が基礎(技術)を支えて進んできた木耐協ですが、これか

いるのは奇跡に近いですね。安斎 たまたま身体が丈夫だったのと、運が良かったからでしょう。真面目に耐震を勉強しようと思ってくれた皆さんの期待に、しっかりお応えしようと考えているだけです。それは木耐協マンスリーレポート創刊号から続いている今号で193回目となる技術通信も同じで、どんな疑問や悩みを抱えているかというのを考えて掲載し続けただけなんです。もう少し皆さんから質問を頂けると嬉しいですけどね。

重なる2人の想い
安斎 震災で多くの木造住宅が倒壊しましたが、構造設計を行う者として「これまで設計した住宅・建てた住宅の再調査は行わなくて良いものか」ということを強く感じていました。
小野 私はその後、具体的に既存木造住宅をどうすれば良いかを考え、消費者に安心して任せ頂ける仕組みづくりと健全な市場形成を進めるために、組織を立ち上げようと考えていました。そこで平成9年の9月にできたのが木耐協の前身となる

「木造住宅耐震補強推進協議会」です。
安斎 その頃ですね。小野さんがわが家まで来て、妻に耐震事業の意義や重要性を熱く語ってくれたのは、私はそれまでに一緒に仕事を進める中で、「小野さんに賭けてみよう」という気持ちになっていました。それを妻も理解してくれました。



◀1999年1月に開催した創立総会、東京国際フォーラム

小野 とはいえ、いつまでも世の中で、住宅の耐震化が求められるようではいけません。「耐震か

らも変わらないこと、変わらないこと、変わらないこと、何でしょうか。
安斎 設立当時、耐震事業は10年程度で落ち着くのではないかと考えていました。が、考えていたより耐震化の進みは遅いように感じます。講習会の受講者は減っていませんので、また「耐震」に関する事業者のサポートは求められているということですから、当面は木耐協の耐震事業を継続する必要があります。

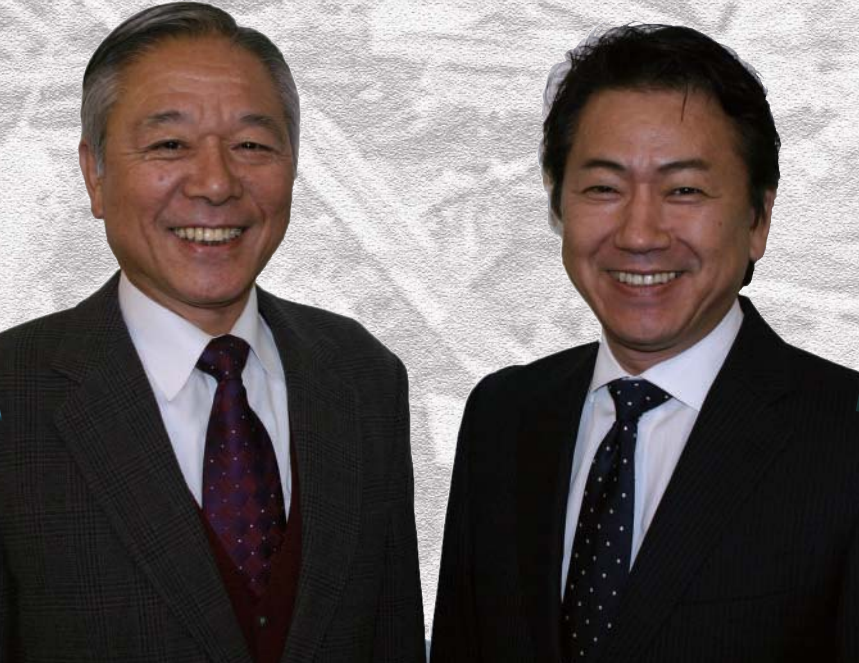
建設大臣認可の協同組合へ
小野 協議会の理事で、今も理事をお務めいただいている細野さんから「活動のバックボーンをしっかりとしなければならぬ」と

継続は力なり
小野 それから早いもので16年が経とうとしています。その間、安斎先生には「耐震技術認定者講習会」と「技術通信」を続けて

ら完全に離れることはありませんが、既存住宅の耐久性や省エネ性能など、木耐協として技術の幅を広げて行くことも考えなければなりません。
また、国土交通省が進める「住宅リフォーム事業者団体登録制度」への登録準備もそうですが、既存住宅流通・リフォームの市場活性が進められる中で、消費者に安心して選択してもらえるような市場・団体・事業者となるよう、自らを律して進んで行きたいですね。
小野 本日はありがとうございました。



▶同じく木耐協創立総会当日、安斎先生です。お元気な安斎先生です。



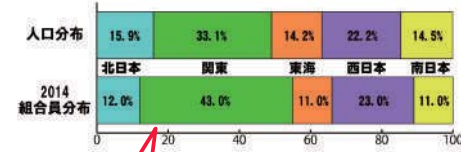
◀1999年創立総会当日の理事長、今も変わりありません。

木耐協では2010年より2年ごとに、組合員の皆様に対してアンケートを実施しています。本年は、①組合員の企業実態(営業地域、売上高、技術者等)、②リフォーム事業の状況(営業手段、件数、契約書、瑕疵保険など)、③精密診断法の取組、④補助金の活用状況、⑤リフォーム事業者団体登録制度への意向について、7月に実施しました。多くの質問項目にもかかわらず、過去回答数のほぼ2倍となる447組合員からご回答いただきました。ここにご協力に感謝するとともに、その結果をご報告いたします。

data 1

組合員が主に活動している地域は?

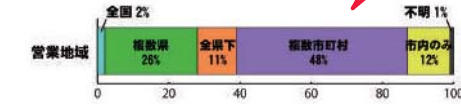
[グラフ1] 組合員の地域分布



大都市圏では人口割合に占める割合も多い

地元密着型の活動

[グラフ2] 組合員の営業地域



地域を絞って活動する組合員多数!

木耐協の組合員は全国で1,035社が活動中で、2012年、2010年と同じ水準にあります。都道府県別にみると、上位は東京都(149社)埼玉県(112)神奈川県(87)大阪府(83)千葉県(62)の順で、首都圏に集中しています。少ない県は、1社の沖縄県、2社の島根県と山口県、3社の福井県、徳島県、宮崎県、鹿児島県で、南西の日本に多く見られます。

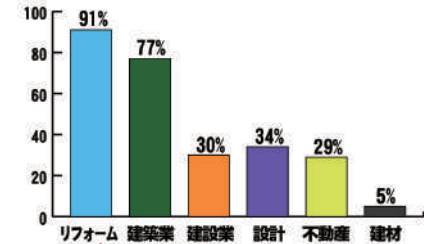
地域を、北日本(北海道・東北・北陸)、関東、東海、西日本(近畿・中国)と南日本(四国・九州・沖縄)の5区分すると、大都市圏である関東・西日本は、人口割合と比べて占める割合が大きく、東海が若干下回り、北日本・南日本が5ポイントほど下回っています。[グラフ1]

営業エリアについては、全国展開2%、複数県26%、全県下11%、複数市町村48%、市内のみ12%と、比較的限定的地域を限定し、営業を集中している傾向にあります。[グラフ2]

data 2

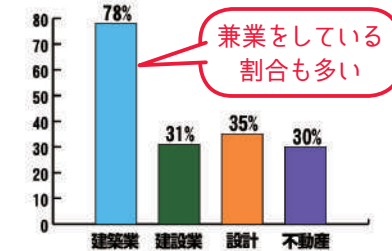
組合員の営業種目は?

[グラフ3] 組合員の営業種目



組合員の大半はリフォームを実施

[グラフ4] リフォーム実施組合員の兼業



兼業をしている割合も多い

9割以上がリフォームを実施!

組合員の主たる営業種目(売上高の20%以上)は、リフォーム業がトップの91%、次いで建築業77%、建設業30%、設計業34%、不動産取引業29%となっています。[グラフ3]

地域別には、リフォーム業はどの地域も全国平均とほぼ同じですが、その他の業種については、北日本は不動産取引業(38%)が高く、関東は建築業(68%)が低く、逆に東海は建築業(90%)、不動産取引業(37%)が高く、西日本は平均的、南日本は建築業(90%)が高く、不動産業(22%)が低いといった、特徴があります。

リフォーム業について、少し詳しく見てみましょう。登録申請を検討しているリフォーム事業者団体登録制度では、リフォーム工事を①戸建て住宅リフォーム工事、②内装・設備工事と③マンション共用部分修繕に3区分していますが、アンケートの回答を見ると、組合員が実施しているリフォームは①戸建てが94%、②内装等62%、③マンション共用25%となっています。

また、組合員は兼業も多く、リフォーム業を営んでいる組合員は、建築業を併せて営んでいる比率は78%、土木などの建設業31%、設計業35%、不動産取引業は30%となっています。[グラフ4]

『想定外を生き抜く力 ~大津波を生き抜いた釜石の子どもたちに学ぶ~』



群馬大学大学院 理工学府教授 片田敏孝氏

東日本大震災の時、釜石市内の小中学生のほぼ全員が津波の被害を逃れました。このことは「釜石の奇跡」とも言われますが、これは奇跡ではなく「防災教育」のたまものだったのです。片田教授がどのように釜石の人々の意識を変えて行ったのか、人々の防災意識を高めるにはどうすれば良いのか、ご講演いただきます。



著書紹介

『みんなを守るいのちの授業 一大つなみと釜石の子どもたち』

発行: NHK出版 / 2012年1月

東日本大震災では多くの人々の命が奪われました。しかし、岩手県釜石市では小中学校で取り組んできた防災教育によって、ほとんどの児童・生徒が巨大津波から無事に逃げる事ができました。釜石の子どもたちが学んできた授業、震災当日の勇気と優しさに満ちた行動を同世代の子どもたちに伝え、未来への希望を届ける1冊となっています。

『目標を持って生きることのすばらしさ』



アルピニスト 野口 健氏

植村直己氏の著書「青春を山に賭けて」に感銘を受け登山を始め、25歳の若さで『7大陸最高峰世界最年少登頂記録』を樹立されました。現在も世界の最高峰に挑む傍ら、富士山やエベレストの清掃登山やシェルパ基金の開設、小中学生向けの環境学校開校など、広い分野で精力的に活動し続けています。その広い視野で感じた事を、力強くお話いただきます。



著書紹介

『世界遺産にされて富士山は泣いている』

発行: PHP新書 / 2014年6月

2013年6月、富士山は世界文化遺産に登録され、日本中が沸き立ちました。しかし、その美しい「日本の象徴」でいま起こっていることは日本社会が抱える問題そのものだった。富士山の現在の姿や世界遺産登録のためにユネスコから求められている「条件」など、日本を代表するアルピニスト野口健が富士山への熱い想いを語ります。

木耐協 あれこれ 寄稿

2015年度 第17回木耐協全国大会 プログラム決定!!

皆さまのご参加を お待ちしております!

同封の申込書で お申込みください!

2015年度全国大会 第17回大会

日時 2015年1月22日(木) 13:00~18:00(受付開始12:30~)

会場 東京国際フォーラム ホールB7 東京都千代田区丸の内3-5-1

交通 JR・地下鉄「有楽町」駅徒歩1分、「東京」駅徒歩5分

定員 500名

参加費 無料!!

2015年度 賀詞交歓会

日時 2015年1月22日(木) 18:00~20:00

会場 東京国際フォーラム ホールB5

参加費 8,000円(税込)

『高齢社会の住まいに必要なこと』



明治大学理工学部 建築学科教授 園田真理子氏

2009年より明治大学教授。専門分野は建築計画、住環境計画、住宅政策論。特に、高齢社会に対応した住宅・住環境計画について、多数の研究、政策提言やコンサルティングが行われています。日本は4人に1人が65歳以上という高齢社会になりました。今回は「高齢社会に求められる住まい」という視点からご講演いただきます。

第7回テーマ 現場調査での流れについて

今回は耐震診断の現場で心掛けることとして、1「調査日時の確認」、2「現地訪問と挨拶」をお伝えした。今回も引き続き、実際の現場での調査の流れについてお伝えする。今回は現地調査を行うにあたって、調査に関する確認事項、説明、お願いの方法について解説していく。

心掛けその3 調査に関する確認、説明、お願い

1 耐震診断の対象である建物かどうかの確認 (構造、階数、用途、築年数等)

詳しくは一般財団法人日本建築防災協会発行のテキストで確認をしていただきたい。なお、図面があれば、当日閲覧させていただく。弊社ではアポイントの際に、可能であれば(原本の破損防止のためにも)コピーをとっていただくようお願いをしているので、それを預かり、現況との整合性や増改築の有無の確認などを行う。図面(原本・コピー問わず)を持ち帰る場合は、お客様の理解を得た上で、預り証の発行を必ず行うこと。

2 増改築やリフォームの履歴の確認

増築においては、1階を広げる場合以外に、平屋に2階を載せた場合や、カーポートを兼ねて2階部分を突き出した形で建て増したなど様々である。これらにおいては、元々の建物の基礎と異なる仕様であったり、取り合い部が一体化されていない場合、十分に確認をしないと、正確な耐震診断ができないことが少なくない。例えば、増築部分の基礎・柱・梁などが既存部分と一体化されていない場合には、別棟(対象外の建物)として考えなければならないこともある。

白水秀一さん しろうず しゅういち ●株式会社住環境工房らしんばん(福岡県福岡市)代表取締役。日本木造住宅耐震補強事業者協同組合、理事。一級建築士。2組の夫婦で運営するアットホームな住宅会社で、耐震工事を含めた住宅づくりを手掛ける。木耐協理事のほか、福岡市耐震推進協議会会長・福岡県リフォーム推進ネットワーク協議会理事を兼務。優良リフォームの普及や住宅の耐震化の実践に取組む。

しろうず 白水秀一氏の

耐震マスターへの道

耐震なくして本物のリフォームなし！



お客様にご理解いただくことが重要！



3 耐震診断の考え方を説明 (耐震性能を左右する要素)

これから実施する耐震診断は一般財団法人日本建築防災協会が定める「一般診断法」を用いて行うということを、テキストを提示しながら紹介するとよい。この際に、診断のポイントである「壁の量」「壁の配置」「劣化度」の考え方や調査方法について端的に説明をする(詳しい説明方法については、マンスリーレポート2014年8月号をご参照のこと)。「壁の量」の算定には、1枚1枚の壁を構成する建材の確認が不可欠である。そのために壁を打診したり、コンセントボックスのカバーを外して内部の確認をするのだが、これもお客様の理解を得ておかないと不審がられることがあるので、しっかり説明を行うことも忘れずに。なお、壁を構成する内部仕様(土塗り壁や筋かいの有無)の確認は、床下や天井裏からの確認が必要になってくる。

4 調査に際してのお願い

各部屋への立ち入りの了解、床下や天井裏への進入についての了解、その際の照明器具使用のための電源拝借の了解、及び各部屋や進入部位の写真撮影の許可をいただく。さらに、調査に要する時間について了解を得ておく。

5 診断・調査に関する書類に署名・捺印をいただく

以上の確認をした後、「耐震診断調査票」もしくは「耐震診断依頼書」など、こちらが用意した書類へ署名をしていただく。費用の発生がある場合には、それについても了解を得ること。

2015年
1月号
第193回

木構造の疑問・質問にお答えします!

安齋先生の技術通信



安齋正弘
福島県生まれ。木耐協設立当初から技術顧問として組合員の指導や技術開発を行う。2007年国土交通大臣表彰。趣味は社交ダンス

◎今号のテーマ

一般診断法「保有する耐力」についての考察

「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の質問・回答集の確認

2週連続で80km超の休日自転車乗りを達成。なにせ6段ギアなので、競輪選手並みの21段には太刀打ちできない。帰りの「ラクチン」を期待して北風に向かって北上。めっきり数が少なくなった、路面を横切る毛虫やのたうち回るミミズを踏まないように注意しつつ走る。おんぶバツ達もまだ少々逃げ回る。(来週はもういいいな)。…オット危ない! 今度は犬の糞だ! お陰様で、「坐骨神経痛」の痛みや痺れも軽減。乗換駅でEVを探する必要もなくなり、むしろ進んで階段を使うこの頃です。

さあ、今月もこの回答集をめぐり、内容・趣旨を確認し日々の実務に活かして参りましょう。
日本建築防災協会に掲載されている文章は、下記ホームページアドレスから直接ご覧ください。
(注)紙面の都合HPに掲載されている文章から、趣旨を外さない程度に表現を変えています。

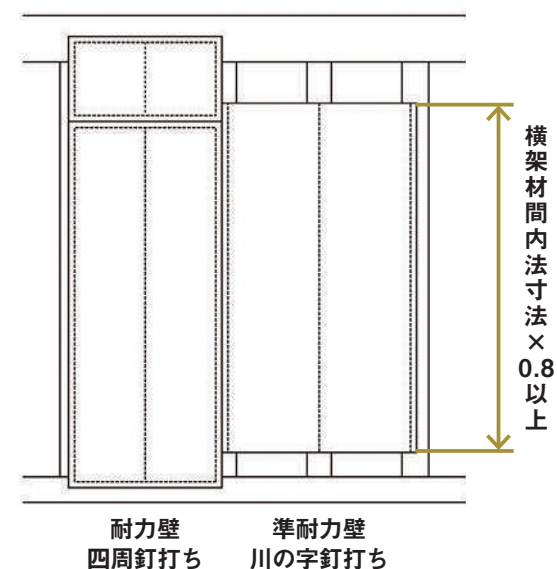
<http://www.kenchiku-bosai.or.jp/seismic/wquest.html>

「準耐力壁仕様」とは Q55 どのような仕様ですか?

A 「住宅の品質確保の促進に関する法律(品確法)」に基づく【評価基準】(平成13年国交省告示第1347号)の「第5の1-1の(3)のホの①の表1」で定義されている仕様を指しています。

考察

という訳なので、これらを図示して見ましょう。準耐力壁としての定義は「川の字釘打ち」で「面材高さが横架材間内法寸法の80%以上」とされています。



浴室などで腰壁が RC造やCB造(の上)にある壁の耐力は評価できるか? Q54

A 上部の壁がその性能を発揮する前に腰壁が壊れないと判断できれば評価して構わない。このときの上部の壁の耐力については実況に応じ危険側とならないよう適切に判断して下さい。

考察

上部の壁についてはQ53と同じようなので、そちらを参考にして下さい。Q53もQ54も同じようなことですが、面材でなく、筋かいの場合では筋かいの傾きがゆるくなる分、水平方向分力の割合が高まるために柱ホゾの「せん断破壊」や土台・横架材の「材端部破壊」を引き起こす危険も増すので実務的には要注意です。下部腰壁部分についてはRCなら問題なく、CBのときは「重量ブロックで縦筋有り」位までは評価可でしょうか。鉄筋無しのブロックでは「目地モルタル」の劣化から耐力が期待できない危惧がありますので、慎重に。特に補助金案件の場合は、評価方法について自治体への事前確認をしていただいた方が良くと思います。

技術的なご相談はこちらへ! ⇨ mail_question@mokutaikyo.com ☎03・6261・2040(木耐協事務局)

Event 木耐協イベントスケジュール

	開催日	エリア	イベント名	時間	会場
1月	22(木)	東京	第17回 木耐協全国大会	13:00~18:00	東京国際フォーラム ホールB7
		東京	全国大会 賀詞交歓会	18:00~20:00	東京国際フォーラム ホールB5
	27(火)	埼玉	耐震事業現地研修会	10:00~17:00	木耐協埼玉研修所
	29(木)	大阪	耐震事業現地研修会	10:00~17:00	木耐協大阪研修所
2月	17(火)	東京	加盟研修会	13:30~17:00	木耐協半蔵門事務所
	19(木)	大阪	加盟研修会	13:30~17:00	木耐協大阪事務所
	24(火)	東京	耐震診断・補強設計研修会	13:00~17:00	木耐協半蔵門事務所
	26(木)	大阪	耐震診断・補強設計研修会	13:00~17:00	木耐協大阪事務所
3月	10(火)	大阪	耐震技術認定者講習会	10:00~17:40	グランキューブ大阪
	13(金)	埼玉	耐震事業現地研修会	10:00~17:00	木耐協埼玉研修所
	17(火)	東京	耐震技術認定者講習会	10:00~17:40	損保会館
	20(金)	大阪	耐震事業現地研修会	10:00~17:00	木耐協大阪研修所

※諸般の事情により、イベントは中止となる場合がございますので、予めご了承ください。 ※お申込み多数の場合、やむを得ず参加をお断りする場合がございます。お早めにお申込みください。 ※各イベントの概要や詳細については、お気軽に木耐協事務局へお問い合わせください。

事務局通信

●編集後記●

対談で小野理事長と安斎技術顧問のお話を聞かせていただきましたが、掲載した内容以外にも、(掲載できない?)様々なドラマがありました。その時から続く「既存住宅をどうにかしなければ」という想いが、今では住宅業界全体に広がったのではないのでしょうか。お二人の熱い想いに触れ、初心に帰って2015年をスタートしようという気持ちになりました。(関)

表紙写真募集中!!

組合員専用HP「Mokoo!」からご応募ください。お待ちしております!

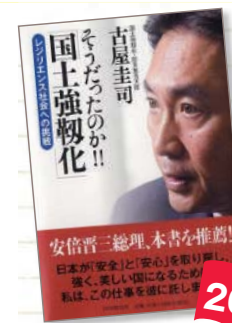


✎ 年始の業務開始について

木耐協事務局は「2015年1月5日(月)」から2015年度の業務を開始いたします。年末年始の診断受付案件の対応や診断結果報告書等の作成につきましては、5日から順次行いますのでよろしくお願いいたします。(診断受付専用ダイヤル:0120-249-761は、年中無休で受け付けております)

✎ 木耐協リフォーム事業セミナーを開催しました

木耐協リフォーム事業セミナーを、11月下旬から12月初旬にかけて8会場(東京・大宮・仙台・新潟・大阪・名古屋・岡山・福岡)で開催しました。内容は二部構成で、一部は9月の宿泊技術研修会でも好評を博した、株式会社ワンオン様による「愛犬家向け」リフォーム市場の広がりについて。犬を飼う家が増加するにつれ、人と愛犬が共に暮らしやすい家が求められていることを事例も交えながらご紹介いただきました。二部ではリフォーム商品のトレンドとして、節電塗料や床暖房・断熱診断ツール等を事務局からご紹介しました。今後も、事業展開のヒントやお客様へのご提案にお役立ていただけるようなテーマを検討していますので、ご期待ください。



『そうだったのか!!』
「国土強靱化」
著者/古屋圭司
(前国土強靱化・防災担当大臣)
発行/PHP研究所
価格/1,500円(税別)

国が何をしようとしているかを知る!
レジリエンス(強靱)社会の必要性を考える!

この号が出る頃には衆議院議員選挙も終わっている。選挙違反にはならないと思いますが、今回は、前国土強靱化・防災担当大臣の先生が自ら書いた「本人から頂きまし」本の紹介です。国の防災の一翼を担う仕事をしている私達にとって、これから国は何をどのようにしようとしているのか?を知ることは、とても重要な事だと思えます。さて、結論から言うと、この本は組合員の皆様方にこそ読んで欲しい本でした。「国土強靱化」とはバラマキ政策である」と言う世間の風潮を払拭すべく、色々な政策とその目的のひとつを具体的に解説し「国土強靱化(レジリエンス)Ⅱ国家のリスクマネジメント」であると納得させてくれます。第1章で国土強靱化に対する誤解を解いた後、拉致問題や成長戦略にも触れ、第5章「レジリエンス住宅」で国民を守る!」では、地震と住宅の問題を素人にも分かり易く説明してくれています。ちなみに、「防災の日」が9月1日である事を知らない組合員はいないと思いますが、「津波防災の日」は何月何日かご存知でしょうか?3月11日?違います。11月5日です。これは、東日本大震災後の2011年6月にできた「津波対策の推進に関する法律」で制定されたのです。11月5日は「稲むらの火」で有名な安政南海大地震(1854)発生の日。大津波が和歌山を襲った時、庄屋の浜口梧陵が収穫したばかりの稲むらに火を付けて、暗闇の中で逃げ遅れていた人達を高台に避難させ多くの命を救ったことで、その日に定められました。少し古い気もしますが、被害の全容も判らない段階で3月11日とするには、記憶が生々すぎたのでしょうか。災害大国のこの国を強靱化しなければならぬのは、今の日本が「強靱」の反対語である「脆弱」であるという意味であり、文中に出てくる「正しく恐れ、冷静に対処すれば被害は減らせるの言葉は胸をうちます。それにしても「キョウジン」も「レジリエンス」も「セイジャク」も難しい言葉ですねえ...

Book

『そうだったのか!!』「国土強靱化」

今号の理事長オススメはこの一冊!



資格の花道

第4回

皆様の仕事に活かせる資格をご紹介します!

『赤外線建物診断技能師』

建物の外壁状況や雨漏りを確かな知識と技術で診断できる!

財団法人職業技能振興会 認定の公的資格!!

赤外線建物診断技能師は、厚生労働省認可財団法人 職業技能振興会が認定する公的資格。赤外線サーモグラフィを使用することで何がどこまで調査でき、その結果から何をどのように判断するのか等、知識・技術を習得できます。耐震診断時の筋かいチェックや劣化事象の判断、外壁劣化や雨漏り状況を調べて画像化し、調査票にまとめる事で、お客様に具体的な説明が可能です。さらに資格取得者にはカメラレンタルや診断代行支援などのフォローアップもあり、自社診断が可能になるだけでなく、第三者調査としてのサポートも受けられます!



代表理事
岡村清孝様

「赤外線建物診断技能師」という公的資格を構築し、資格取得の為の研修を実施しています。皆様に「雨漏り」「外壁劣化」「断熱欠損」などの修繕をご提案する前提としての診断技術「赤外線建物診断」をご理解頂き、弊社と連携してお取り組み頂ければ幸いです。

data	
受験資格等	特に無し
取得費用 目安	43,240円 (受験料13,000円+受講料30,240円)
試験月	年8回程度/東京・大阪・名古屋など 主要都市で開催(下記HP参照)
その他	合格後は認定登録料2,000円が必須 2年更新/更新費用5,000円

●管理団体 一般社団法人 街と暮らし環境再生機構 <http://www.ter.or.jp/> ☎044-201-7411

発行●国土交通大臣認可法人 **日本木造住宅耐震補強事業者協同組合**
 発行人●小野 秀男 編集●関 励介、伊藤健三、渥美寿子
 所 在●東京都千代田区麹町2-12-1 グランアックス麹町7F tel 03・6261・2040 fax 03・6261・2041

株式会社 コーヨー様
[兵庫県三田市]

組合員さん
～事務局員がおじゃまします～
こんにちは!

地震特性踏まえ備えを



▲市民向けセミナーが
取り上げられた新聞記事



▲三田祭りの様子



▲倶楽部内での勉強会の様子

いつもお世話になっ
ている地元の皆さん
にどんなお返しので
きるかを考え、地域の
事業者とReady倶楽
部を結成しました。地
元から悪徳業者を一
掃するため、今後も活
動を続けていきます。
(福井章二社長)

▶倶楽部の活動
が神戸新聞に掲載されました



▲倶楽部の皆様一同

耐震の問合せが増加
社内勉強会を開催

コーヨー様は地域密着のスタイルで活動されています。「阪神・淡路大震災から20年の節目を迎えることで、最近耐震の話をする機会が多くなった」と、福井社長。社員の皆で耐震の案内ができるようにと、木耐協の「耐震技術認定者」である福井社長が講師となって、耐震の社内勉強会を開催されました。

今後は改めて約1000組のOB顧客様に耐震診断・補強工事の案内を行う予定です。

市民を守るため
「さんだReady倶楽部」
を結成

三田市民を悪徳リフォーム業者から守るために、三田市内の建築業者、電気屋が集まって「さんだReady倶楽部」を結成されました。定期的に集まって意見交換や技術・サービス向上のための勉強会を行い、現在では三田市の協力指定パートナーにも登録され、非常勤団体として活動されています。

地元の「三田祭り」にもReady

倶楽部としてかき氷や綿菓子の屋台を出展し、市民の方々と積極的にコミュニケーションを取られています。

市民向けセミナーを
毎年開催

また、「さんだReady倶楽部」では年に1度、市民向けセミナーを開催されています。セミナーでは、大学教授による三田市の地震特性に関する講演や、三田市役所職員による耐震の補助金の説明、さらに近年その悪影響が懸念されている「PM2.5」の対策など、幅広いテーマで情報提供されています。

こうした地域密着の活動の結果、最近では地元の方から「Ready倶楽部で活動されている方ですか?」と声をかけてもらえる事が増え、お住まいのご相談につながっているそうです。

福井社長の地元への想いを改めて感じました。地元へ貢献する為、何が出来るかを考え、それを行動に移す福井社長の行動力を私も見習わせて頂いています。
(担当/平井成剛)

